

磐梯朝日国立公園（出羽三山・朝日地域及び飯豊地域）の公園計画の変更案の概要

これまでの経緯

- ・昭和25年 9月 5日 公園区域の指定
- ・昭和32年 9月27日 区域追加及び削除
- ・昭和47年10月18日 羽黒地区を追加
- ・昭和63年10月11日 出羽三山・朝日地域の公園区域及び公園計画の全般的な見直し
(再検討)

公園の概要

- ・ 区 域：飯豊地域は、越後三山の北端にある花崗岩の隆起山塊で、大日岳(2,128メートル)を最高峰に、飯豊山(2,105メートル)・北股岳・烏帽子岳・御西岳(2,013メートル)などの2,000メートル級の山々からなる。出羽三山・朝日地域は、月山(1,980メートル)・湯殿山・羽黒山からなる出羽山塊と、大朝日岳(1,870メートル)・西朝日岳・寒江山等からなる朝日連峰から構成される。
- ・ 景観の特長：飯豊地域は、胎内川・飯豊川・実川・玉川などの河川が発達し、上流部において深い溪谷を形成している。一帯は冬の季節風の影響を受ける我が国有数の豪雪地帯で、山稜の東側には古い氷食地形を土台にした雪食地形が発達している。月山は有史以前に形成された火山で、北面の溶岩台地である弥陀ヶ原は池塘を持つ湿原が発達している。東面では冬の季節風の影響により大雪田が発達し、越年を繰り返している。朝日連峰は飯豊連峰と同じ越後山地に属する花崗岩の隆起山塊で、雪が多いため、ここでも飯豊地域同様、古い氷食地形を土台にした雪食地形が見られる。
- ・ 動植物：飯豊地域は、山麓から中腹にかけてはブナ林で覆われ、さらにナナカマド・ミネカエデ・ダケカンバなどの低木林を経て、高山帯ではイネ科、カヤツリグサ科の草原やお花畑の広がる雪田植生となっている。ニホンカモシカ・ニホンツキノワグマ・ホンドザルなどの野生動物も多い。出羽三山・朝日地域は、山麓から中腹にかけては、ブナ林で覆われ、溪流に沿ってサワグルミ・カエデ等が生育している。さらに、ミネカエデやナナカマド、アカミノイヌツゲの多い低木林を経て高山植生へと移行する。
- ・ 利用形態：飯豊地域の荒川地区や天狗平等の山麓部では、自然探勝や温泉保養、山岳部では夏季の縦走登山が主な利用となっている。出羽三山・朝日地域の出羽三山地区においては歴史探勝、自然探勝及び登山等、また、朝日地区では夏季の縦走登山を目的とした利用が多い。年間利用者数は磐梯朝日国立公園全体で1,419万人(平成8年)である。

変更の概要

公園を取り巻く諸情勢の変化を踏まえ、公園計画の見直しを行い、適正な保護及び利用を増進しようとするものである。

1. 公園区域の変更

なし。

2. 保護計画の変更

(1) 保護規制計画

なし。

* 地域地区別面積：単位 ha (%)

朝出 日羽 地三 域山 ・	特 別 地 域				普通地 域
	76,610(100)				
	特別保護地区	第1種特別地域	第2種特別地域	第3種特別地域	0 (0)
	7,722(10)	10,378(14)	21,655(28)	36,855(48)	
公園区域 76,610(100)					
飯 豊 地 域	特 別 地 域				普通地 域
	38,184(92)				
	特別保護地区	第1種特別地域	第2種特別地域	第3種特別地域	3,366 (8)
	6,973(17)	15,833(38)	7,061(17)	8,317(20)	
公園区域 41,550(100)					

(2) 保護施設計画

朝日山地及び飯豊山地の稜線部において公園利用者の踏圧等により植生の衰退が見られることから、植生の荒廃防止と復元を図るため、植生復元施設を計画する。

【出羽三山・朝日地域】

・追加 3ヶ所(植生復元施設3)

【飯豊地域】

・追加 3ヶ所(植生復元施設3)

3. 利用計画の変更

朝日山地及び飯豊山地の自然とのふれあいを深めるために、本公園の主要な利用拠点である羽黒・鷹ノ巣集団施設地区計画の見直しを行うとともに、登山や自然探勝利用のための避難小屋、園地などを計画する。

【出羽三山・朝日地域】

(1) 集団施設地区

・変更 1ヶ所(羽黒)

(2) 単独施設

・追加 3ヶ所(避難小屋3)

・削除 4ヶ所(園地1、宿舎1、野営場1、運動場1)

(3) 道路

・変更 1路線(歩道)

【飯豊地域】

(1) 集団施設地区

・変更 1ヶ所(鷹ノ巣)

(2) 単独施設

・追加 4ヶ所(園地3、野営場1)

・削除 25ヶ所(広場4、園地2、宿舎16、休憩所1、野営場2)

(3) 道路

・追加 8路線(車道3、歩道5)

・変更 13路線(車道4、歩道9)

・削除 3路線(歩道3)